

衆議院北朝鮮による拉致問題等に関する 特別委員会ニュース

H23.10.24 第 179 回国会第 3 号

10月24日(月) 第3回の委員会が開かれました。

1 北朝鮮による拉致問題等に関する件

・玄葉外務大臣、山岡国務大臣(拉致問題担当・国家公安委員会委員長)、山口外務副大臣、松原国土交通副大臣、城井文部科学大臣政務官及び政府参考人に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

長尾 敬君(民主)

- ・地方自治体による朝鮮学校への補助金交付について、見直しの動きがあるが、文部科学省はどのように考えているのか。
- ・朝鮮学校で使用されている教科書の内容について、文部科学省はどのように把握しているのか。
- ・平成 23 年 8 月に菅前総理から朝鮮学校に対する高校実質無償化適用の審査手続きを再開するように指示が出されたが、再開することになった理由は何か。
- ・朝鮮学校に対する高校無償化適用問題についての山岡国務大臣の所見を伺いたい。

柴橋 正直君(民主)

- ・執行率の低い拉致問題対策関係予算の情報収集経費の使い方について、山岡国務大臣はどのような改善指示を出したのか。
- ・政府は、平壤にある諸外国の在外公館に対して特定失踪者の保護を要請しているのか。また、特定失踪者の具体的な名前を在外公館に伝えていくことについて、山岡国務大臣の所見を伺いたい。
- ・政府は、北朝鮮人権法に基づき、特定失踪者を支援している民間団体への支援をしたことがあるのか。法の趣旨に即し有効に使うべきではないか。

竹本 直一君(自民)

- ・政権交代以後、拉致問題に関して、民主党政権はどのような取組を行ってきたか。
- ・横田めぐみさんが 2005 年初めには生存していたなどの韓国の朴宣映(パクソンヨン)国会議員よりもたらされ

た脱北者証言に関して、政府は把握しているか。

- ・北朝鮮による拉致などの人権侵害をやめさせるため、調査・検証、勧告権を持った事実調査委員会(Commission of Inquiry)を設立することについて、外務省の見解を伺いたい。

古屋 圭司君(自民)

- ・民主党政権が、北朝鮮による拉致被害者に関する再調査委員会の立上げについての日朝実務者協議における合意(平成 20 年 8 月)の履行を北朝鮮に要求した具体的実績について伺いたい。
- ・日朝以外の六者会合関係国と北朝鮮との対話が進む中で、拉致問題が置き去りにされないための外交戦略を持つべきではないか。
- ・拉致実行犯の関係者を支える政党に対し拉致対策を担う民主党関係者が献金していたという事実について、山岡国務大臣の見解を伺いたい。
- ・拉致問題対策本部長指示(平成 22 年 11 月 29 日)における「北朝鮮側の対応等を考慮しつつ更なる措置についての検討及び現行法制度の下での厳格な法執行の推進」の「更なる措置」に関し、政府の検討状況を伺いたい。

竹内 譲君(公明)

- ・平成 23 年 9 月 19 日から 24 日の間にそれぞれ行われた米・韓の大統領及び外相、並びに露・中の外相との会議で、日本側が要請した拉致問題の解決への協力に関して、各国の回答・反応を伺いたい。
- ・北朝鮮が平成 20 年 8 月に約束した拉致被害者の再調査委員会の立ち上げに応じない理由について玄葉外務大臣の見解を伺いたい。

・拉致被害者原敕晁さんの拉致を指示したとされる北朝鮮
対外情報調査部の姜海龍(カンヘリョン)元副部長の国際
手配を現在行っているのか。

笠 井 亮君(共産)

・日米韓による三カ国共同プレス声明(7月23日)を踏
まえ、拉致問題等の解決に向け、我が国としてどのような
外交的イニシアティブを発揮していくつもりか。

・拉致、核・ミサイル問題について多国間による協議の場
とは別に日朝二国間で話し合う必要性についての玄葉外
務大臣の見解を伺いたい。

・六者会合において北朝鮮問題の包括的な解決を目指すた
め、日本として主体的な外交戦略を持つ必要性についての
山岡国務大臣及び玄葉外務大臣の見解を伺いたい。

中 島 隆 利君(社民)

・拉致問題対策本部長指示(平成22年11月29日)8項
目は現内閣においても踏襲されるのか。また、追加すべ
き項目はあるか。

・拉致問題が国際社会で取り残されないように、北朝鮮と
の間にパイプを作ることの必要性についての玄葉外務
大臣の決意を伺いたい。

・石川県能登半島沖合での脱北者発見(9月11日)から
韓国移送(10月4日)までの手続きの経緯について伺い
たい。また、日本定住を希望した場合の対応について伺
いたい。